

Adobe Expressでコンテンツのデザインを一新し、自律的な学習者が30%増加

RICOH

RICOH

「プロのデザイナーでなくても高品質なコンテンツ制作を内製化でき、社員の研修プラットフォームの活用も加速させることができました」

経営企画本部 人財開発センター 能力開発企画室 デジタルアカデミー推進グループ リーダー 興石 利博氏

導入製品

・Adobe Express

導入メリット

学習動画のサムネイルの改善



魅力的なサムネイルを作成し、研修プラットフォーム利用者数が3割増

著作権侵害リスクの低減



商用利用を念頭に設計された画像生成AIを活用し著作権侵害のリスクを抑制

コンテンツ制作時間を5割減



簡単な操作でデザインを作成でき、コンテンツ制作時間を半分に効率化

コンテンツクオリティの向上



Adobe FireflyやAdobe Stockの画像などを活用し、コンテンツの品質が向上

リコージャパン株式会社

47都道府県すべてに事業所を構え、リコー製品を中心とした商品・サービスの提供、各種コンサルティング、システム構築など、多様なソリューションを一気通貫で提供。ビジネスコンセプトに「Customer's Customer Success」を掲げ、顧客のその先にいるお客様にまで届く価値の創出を目指している。



経営企画本部 人財開発センター 能力開発企画室 デジタルアカデミー推進グループ 兼 人事・コーポレート本部 人事センター HR・EDTechサポートグループ 松本 浩明氏 (左)

経営企画本部 人財開発センター 能力開発企画室 情報セキュリティコンサルティンググループ 山本 典央氏 (中)

経営企画本部 人財開発センター 能力開発企画室 デジタルアカデミー推進グループ リーダー 興石 利博氏 (右)

リコージャパン株式会社の人財開発センターでは、社内研修プラットフォームに投稿する動画のサムネイルや学習コンテンツで使用する画像やフォントのクオリティ改善と画像の著作権侵害リスク低減などを目的にAdobe Expressを導入。学習動画で使われる画像のクオリティを向上させ、同プラットフォームの利用者数を約30%増加させた。導入の経緯や導入後の効果、今後の展望などについて、同社の人財開発センターに所属する3名に話を伺った。

■ 導入の経緯

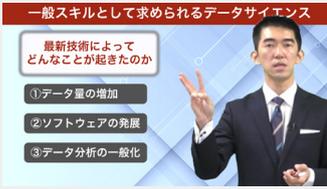
サムネイルのクオリティ改善や著作権侵害リスクなどを踏まえ、Adobe Expressを導入

リコージャパン株式会社 (以下、リコージャパン) の経営企画本部 人財開発センターでは約1万8,000人を超える同社の社員教育を担当している。同部門は様々な手法で人材育成に取り組んでいるが、その中の1つに「リコージャパンデジタルアカデミー」(以下、デジタルアカデミー)がある。デジタルアカデミー推進グループのリーダーを務める興石氏はデジタルアカデミーについて、次のように説明する。

「デジタルアカデミーは全社員がデジタル人材を目指すための社内研修プラットフォームです。『社員の自律的な成長を促進し、企業全体の競争力を強化すること』をミッションとして、学習動画を始めとする多様な学習コンテンツを提供しています」

人財開発センターはデジタルアカデミー内に投稿する学習動画の作成も担当しているが、以前は様々な課題を抱えていた。例えば、動画のサムネイルや学習コンテンツの画像やフォントのクオリティも課題の1つ。3,500本前後に上る学習動画をより多くの社員に視聴してもらうためには、学習動画のサムネイルを見た社員に「面白そう」と思ってもらわなければならない。しかし、Adobe Express導入前はクリエイティブツールの使用経験がある社員が少なかったため、クオリティの高い画像作成は難しかった。

また、社内事例として学習サイトのスクリーンショットを社外に公開するケースも増えていたが、フリー素材を使うとオリジナリティが出にくく、動画の価値を毀損してしまう恐れがあったこと、フリー素材が著



Adobe ExpressのAI背景削除機能を利用して人物画像を加工したコンテンツ画面例



Adobe Fireflyで生成した画像とAdobe Expressのテンプレートを活用したサムネイル例

USER PROFILE

リコージャパン株式会社

<https://www.ricoh.co.jp/>

所在地：東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル

創業：1959年5月

資本金：25億円

従業員数：18,161名（2024年4月1日現在）

事業内容：複合機やプリンターなどの画像機器やICT関連商品等の販売・関連ソリューションの提供など



詳細情報

<https://www.adobe.com/jp/express/business>



アドビ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

著作権を侵害している可能性も0ではないことを懸念していた。こうした課題を背景に、2024年4月より人財開発センターはAdobe Expressを導入。Adobe Expressに用意されている20万点以上のテンプレートや2億点以上のロイヤリティフリーの素材、画像生成AIのFireflyを用いてデジタルアカデミーの学習コンテンツや有償の研修資料、顧客向け資料・チラシを作成している。

■ 選択のポイント

「商用利用が可能」および「著作権侵害のリスクが低い」点に着目

Adobe Expressを導入するにあたり、人財開発センターがまず着目したのは、Adobe Express ライセンスで利用可能なAdobe Fireflyの生成物やAdobe Stockの素材が商用利用可能である点だ。なぜ商用利用に注目したのか。社外向けにセキュリティ分野に関する研修を行う人財開発センターの山本氏は「社外向けに有償で学習動画を公開したり研修を実施したりすることがあるため、動画や研修資料で使う画像は商用利用が可能である必要がありました」と語る。他に検討したAI画像生成サービスで商用利用が可能なのはなかったという。

また、Adobe Fireflyについては著作権侵害のリスクが非常に低いことも導入の決め手となった。Adobe Express導入を推進した松本氏は次のように説明する。

「Adobe FireflyはAdobe Stockの素材やオープンライセンスされた作品など著作権の問題をクリアした画像のみをベースにコンテンツを作成するため、著作権を侵害するリスクは極めて低く、安心感がありました」

※Fireflyを利用して生成されたアウトプットに対して契約上の知的財産権（IP）の補償を受けることが出来るプランもあります。

■ 導入効果

デジタルアカデミーの利用者は約5,500人増加

Adobe Expressの導入により、デジタルアカデミーの利用者数は大幅に増加した。

「Adobe FireflyやAdobe Stockで生成・取得した画像を学習サイトに利用し始めてから半年間で、デジタルアカデミーの利用者数は約5,500人増の1万3,500人になりました。当社社員数は約1万8,000人のため、利用率は30%増の75%になる計算です。ABテストなどの結果を基に魅力的なサムネイルや動画内の画像を差し込むことで、学習の興味づけが上手くいっている結果だと考えています」（興石氏）

利用者数だけでなく、再生回数は15%増加、視聴完了率も10%向上した。実際に社員からは「コンテンツの見栄えが良くなり、視聴意欲が刺激される」という声も寄せられている。興石氏が述べたとおり、利用者数や再生回数などの増加の背景には、画像のクオリティ向上が大きく寄与しているのだ。

また、山本氏は「私たちの有償研修は専門的、特殊なものが多く、その内容にマッチした画像準備に苦労していました。今回、商用利用が可能なAdobe Expressを導入したことで、画像を探したり編集したりする手間が大幅に減り、画像作成に係る業務時間が半分程度に短縮されました」と、Adobe Expressが業務効率化にも寄与している点も評価している。

そのほか、デジタルアカデミーのブランディングにもAdobe Expressは貢献している。

「Adobe Expressでバナーやテキストのデザインを統一したり、社内ポータル用素材を作成したりすることで、一貫したデザインの提供が可能になります。これにより、デジタルアカデミーブランドが強化されると考えます」（興石氏）

■ 今後の展望

引き続き、自律的に学ぶ社員の学習意欲を喚起させる学習コンテンツを作成する

人財開発センターは今後もデジタルアカデミーでAdobe Expressの活用を加速させていく方針だ。

「当社は自律的に学ぶことを重要視しています。引き続き、Adobe Expressを用いて、学習意欲を高める動画のサムネイルや学習コンテンツを作成したいと思っています」（興石氏）

このコメントからも、Adobe Expressがリコージャパンの重視する自律的な学習を推進する一翼を担っていることが分かる。また松本氏は、AI自動音声合成システムの機能追加による、Adobe Expressの新たな活用の可能性を期待している。

「AI自動音声合成システムの機能も追加されれば、例えば学習動画にナレーションをより手軽に付けられます。ナレーションのある動画を増やすことで、視聴者の理解度向上にも寄与するはずですよ」（松本氏）

現在も社員が講師となる場合には、その社員本人にナレーションをつけてもらう場合もあるが、人によっては自動音声を要望されるケースもある。AI自動音声合成システムとの連携が実現すれば社員のニーズにも応えられる。そのほかにも人財開発センターでは、Adobe Expressを用いて社内研修用の告知や社内向けビデオ編集を行うことで外注コストの削減を図ったり、社内イントラサイトのバナーや社内向け広報資料を作成して社内広報活動を迅速化させたりと、さまざまな展望を描いている。 ※掲載された情報は、2024年10月現在のものです。